

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成25年9月12日 (2013.9.12)

【公表番号】特表2013-500981(P2013-500981A)

【公表日】平成25年1月10日 (2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-002

【出願番号】特願2012-523018(P2012-523018)

【国際特許分類】

A 0 1 N 65/00 (2009.01)

A 0 1 P 3/00 (2006.01)

A 0 1 N 65/30 (2009.01)

A 0 1 N 43/653 (2006.01)

A 0 1 N 43/42 (2006.01)

A 0 1 N 43/54 (2006.01)

A 0 1 N 43/50 (2006.01)

A 0 1 N 43/828 (2006.01)

A 0 1 N 37/22 (2006.01)

A 0 1 N 43/36 (2006.01)

【 F I 】

A 0 1 N 65/00 A

A 0 1 P 3/00

A 0 1 N 65/30

A 0 1 N 43/653 B

A 0 1 N 43/42 1 0 1

A 0 1 N 43/54 A

A 0 1 N 43/50 K

A 0 1 N 43/82 1 0 2

A 0 1 N 37/22

A 0 1 N 43/36 A

A 0 1 N 43/653 G

【手続補正書】

【提出日】平成25年7月29日 (2013.7.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

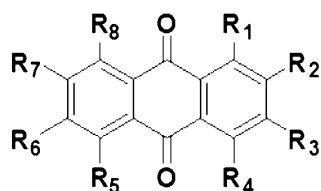
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) イタドリ (Reynoutria) 種に由来する抽出物、ここで、前記植物は、植物病原体に対する植物抵抗性を誘導する 1 以上のアントラキノン誘導体を含有し、ここで、前記誘導体は、
(i) 以下の構造

【化 1】



(式中、R 1、R 2、R 3、R 4、R 5、R 6、R 7、および R 8 は、水素、ヒドロキシル、ヒドロキシルアルキル、ハロゲン、カルボキシル、アルキル、または糖である)を有する、と、

(b) 非元素または非湿潤性硫黄を欠く、非ビタミン E 系、非有機リン系の抗微生物剤と、
を含む、植物病原体感染の調節に使用される相乗的組合せであって、ここで、前記相乗的組合せの相乗効果が E / E₀ を決定することによって測定され、かつ E / E₀ が少なくとも 1.2 である、相乗的組合せ。

【請求項 2】

前記非元素または非湿潤性硫黄を欠く、非ビタミン E 系、非有機リン系の抗微生物剤が、化学的殺真菌剤、殺菌剤、殺昆虫剤または殺線虫剤である、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 3】

前記抗微生物剤が、(a) シングルサイト抗真菌剤、(b) 脱メチル化阻害剤、(c) 殺真菌および / もしくは殺昆虫活性を有する天然油もしくは油製品、または (d) 非無機系の、化学的マルチサイト殺真菌剤である、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 4】

前記抽出物が、少なくともフィスシオンを含有する、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 5】

(a) 前記シングルサイト抗真菌剤が、ベンズイミダゾール、モルホリン、ヒドロキシピリミジン、アニリノピリミジン、ホスホロチオレート、キノン外部阻害剤、キノリン、ジカルボキシミド、カルボキシミド、フェニルアミド、アニリノピリミジン、フェニルピロール、芳香族炭化水素、桂皮酸、ヒドロキシアニリド、抗生物質、ポリオキシン、アシルアミン、フタルイミド、ベンゼノイド (キシリルアラニン) からなる群から選択され、(b) 前記脱メチル化阻害剤が、イミダゾール、ピペラジン、ピリミジン、およびトリアゾールからなる群から選択され、(c) 前記非無機系の、化学的マルチサイト殺真菌剤が、ニトリル、銅、キノキサリン、スルファミド、ホスホネート、ホスファイト、ジチオカルバメート、クロロアルキルチオ、フェニルピリジン - アミン、シアノ - アセトアミドオキシム、フルジオキシソニルおよびメフェノキサムからなる群から選択される、請求項 3 に記載の組合せ。

【請求項 6】

前記抗微生物剤が、(a) トリアゾール、ここで、前記トリアゾールは、ピテルタノール、ミクロブタニル、ペンコナゾール、プロピコナゾール、トリアジメホン、プロムコナゾール、シプロコナゾール、ジニコナゾール、フェンブコナゾール、ヘキサコナゾール、テブコナゾール、テトラコナゾールからなる群から選択される、(b) イミダゾール、ここで、前記イミダゾールは、フェナミドン、フェナニル、イブロジオン、トリフルミゾールである、(c) ニトリル、ここで、前記ニトリルは、クロロニトリルおよびフルジオキシソニルである、(d) ストロビルリン、および (e) キノン、ここで、前記キノンは、キノキシフェン (5, 7 - ジクロロ - 4 - キノリル 4 - フルオロフェニルエーテル) である、である、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 7】

前記非元素または非湿潤性硫黄を欠く、非ビタミン E 系、非有機リン系の抗微生物剤がストロビルリンであり、ここで、前記ストロビルリンは、アゾキシストロビン、クレソキ

シム - メチルまたはトリフロキシストロピンである、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 8】

前記 E / E₀ が少なくとも 1 . 3 である、請求項 1 に記載の相乗的組合せ。

【請求項 9】

前記組合せが組成物である、請求項 1 に記載の組合せ。

【請求項 10】

植物における植物病原体感染を調節するための方法であって、前記植物および / またはその種子および / または前記植物を生育させるのに使用される基板に、前記植物病原体感染を調節するのに有効な量の請求項 1 に記載の組合せを適用することを含む、方法。

【請求項 11】

(i) 非元素または非湿潤性硫黄を欠く、非ビタミン E 系、非有機リン系の抗微生物剤、(i i) 殺真菌活性を有する界面活性剤および (i i i) 非バチルス、非シュードモナス、非ブレビバチルス、非レカニシリウム、非アンペロミセス、非フォーマ、非シュードジマ生物学的防除剤からなる群から選択される抗植物病原体剤に対する植物病原体の抵抗性の出現を減少させるための方法であって、それを必要とする植物に、抗植物病原体剤に対する前記植物病原体の前記抵抗性を減少させるのに有効な量の請求項 1 に記載の組合せを適用することを含む、方法。

【請求項 12】

植物病原体感染を調節するための相乗的組成物を製造するための、(a) 植物に由来する抽出物、ここで、前記抽出物は、植物病原体に対する植物抵抗性を誘導するアントラキノン誘導体を含む、と、(b) 非元素または非湿潤性硫黄を欠く、1 以上の非ビタミン E 系、非有機リン系の抗微生物剤の使用であって、ここで、前記相乗的組合せの相乗効果が E / E₀ を決定することによって測定され、かつ E / E₀ が少なくとも 1 . 2 である、使用。